

## 国頭村におけるイセエビ類の漁獲量について

照屋 忠敬

### 1. イセエビ類漁獲量の年変化

イセエビ類漁獲量の年変化を県全体と国頭村について、昭和47年より昭和56年までまとめてみたのが図1である。

県全体では昭和49年と昭和55年にピークがみられ、昭和52年に落ちこみがみられる年変化を示すが、国頭村においては1t～5tの間で漁獲され、この10年間の平均は3.6tである。

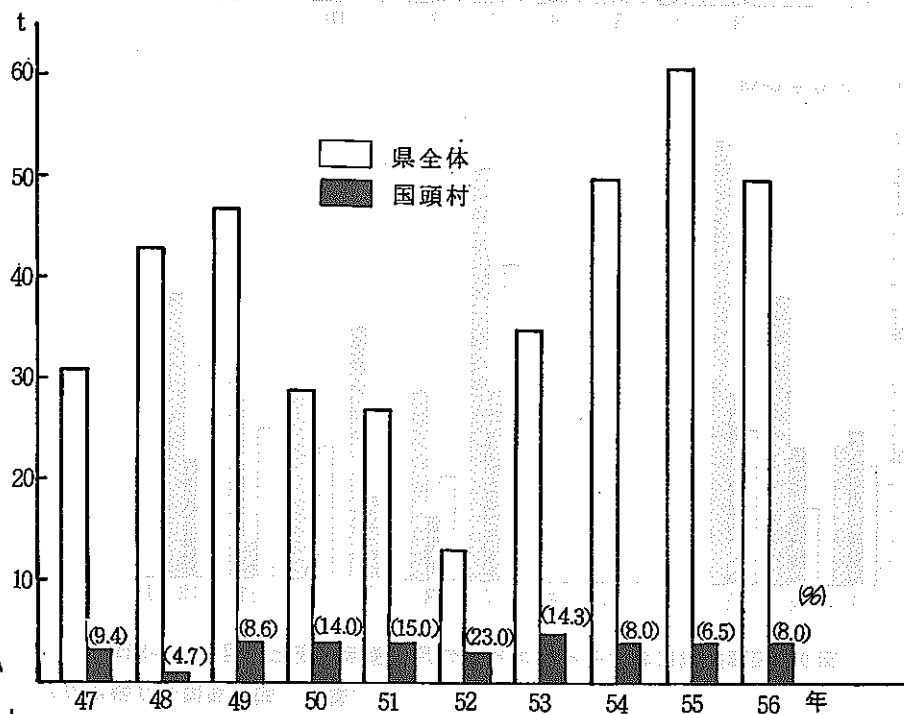


図1. イセエビ類の漁獲量年変化 (資料：農林水産統計年報より)

### 2. 国頭漁協におけるイセエビ類の月別漁獲量

昭和56年～昭和58年におけるイセエビ類の月別漁獲量を国頭漁協のセリ帳より調べたのが図2である。

月別の漁獲状況を見るとイセエビ類は年による変化も多少みられるが3月、7月、に多獲され禁漁期の4～6月はその他のイセエビ類が漁獲されている。

図2のイセエビ類というのはカノコイセエビ、シマイセエビ、ゴシキエビ、ケブカイセエビ、ニシキエビ等のイセエビ属をさすが、種の区別はされていない。その他のイセエビ類はセミエビ属、ゾウリエビ属、ウチワエビモドキ属がふくまれている。

ちなみに沖縄県（1980）イセエビ類幼稚仔保育造成事業調査報告書による、1979年7月～11月の国頭漁協での漁獲物調査ではシマイセエビが65.3%をしめ、他はカノコイセエビ、セミエビ、ゴシキエビ、ケブカイセエビなどであった。

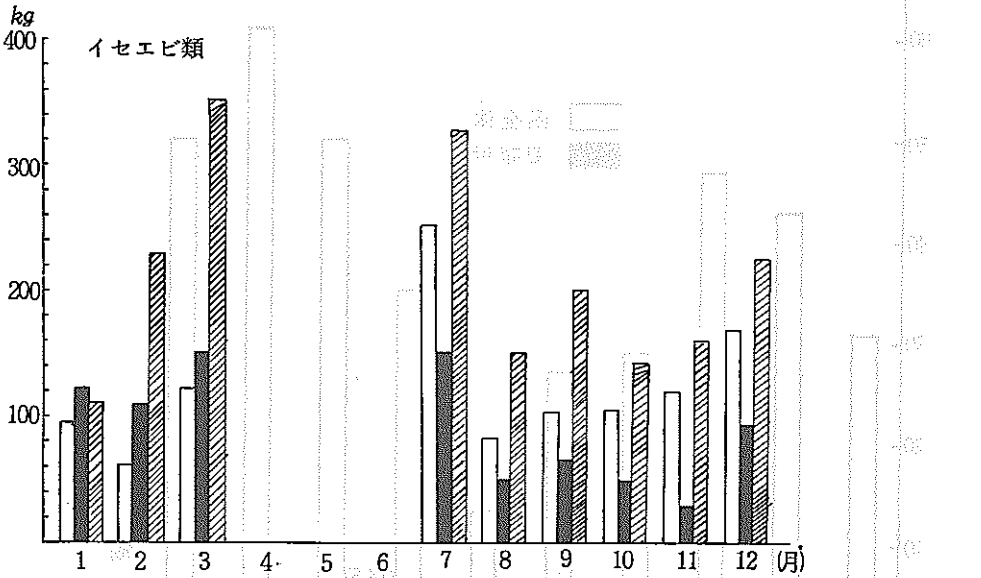
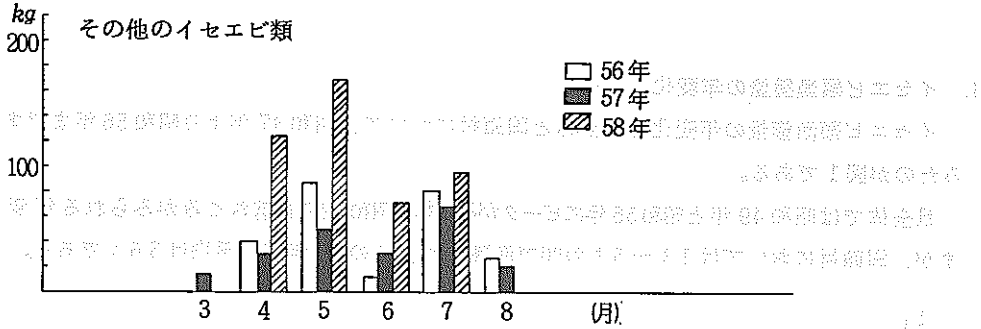


図2. 国頭漁協におけるイセエビ類の月別漁獲量変化（昭和56～58年）

（資料：国頭漁協セリ帳より）

3. 月別漁獲金額について

図3は国頭漁協におけるイセエビ類のセリ価額を、昭和56～昭和58年について調べたものである。又、表-1はその平均金額を示した。

図3の昭和53年11月は最も漁獲量が少なく高値をよんだが、それをのぞくと表-1の傾向となる。つまり1～3月は2,300～2,400円台、11月、12月は2,600～2,700円台である。その他のイセエビが漁獲されている4～6月は1,900～2,100円台、漁獲量の最も多い7月は1,700円と安値で9月、10月も1,800円台である。

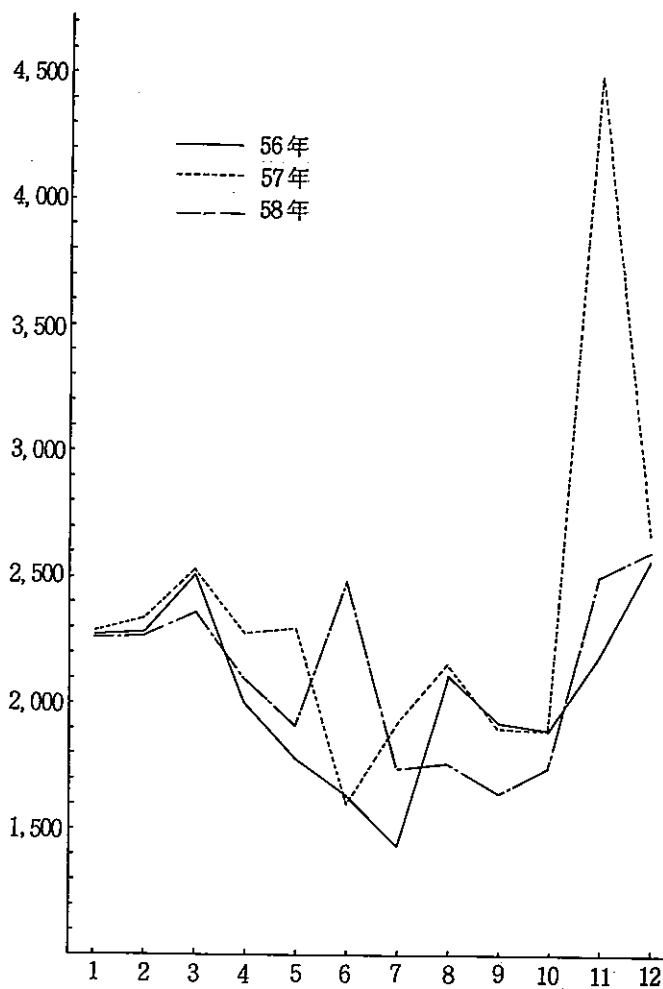


図3. 国頭漁協におけるイセエビ類の月別漁獲金額の変化(昭和56~58年)  
(資料: 国頭漁協セリ帳より)

表-1. 国頭漁協におけるイセエビ類の月別平均漁獲金額 (円 / kg)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
昭和 56~58年 平均金額	2,300	2,290	2,460	2,100	1,990	1,900	1,700	2,110	1,820	1,840	2,760	2,650